

文化財センター通信  
【かざぐるま】

# 風車

6

平成14年11月1日発行

紀州の歴史と文化の風

〒640-8268 和歌山県和歌山市広道20番地

発行：財団法人 和歌山県文化財センター

Tel：073(433)3843 Fax：073(425)4595



■ 第2回考古学講座で弥生土器の説明をする土井主任

## 主な内容

通信その1

センター考古学講座について

【社寺建築の見方】

コラム・考古学の散歩道

—大きな土器と小さな土器—

【お知らせとご案内】

—センター第12回速  
報展の開催について—

## 通信その1 センター考古学講座開催中

黒石 哲夫

当センターは、今年度15周年を迎え、この間、県内の埋蔵文化財の調査事業を数多く実施してきました。この調査成果を広く県民のみなさまに知っていただくため、7月から来年3月まで、毎月1回職員が講師となり考古学講座を開催しています。場所は海南整理事務所です。現在まで、4回行われ、県内外から熱心な考古学ファンが参加してくれています。

1回目と3回目は富加見泰彦が担当し、古墳時代の紀ノ川水系での朝鮮半島などから渡来した文化の受容についてと、和歌山市西庄遺跡の発掘成果の分析から推定した、海を舞台とした紀伊の海民集団の生産活動について発表しました。

2回目は土井孝之が、最近調査された徳蔵地区遺跡や堅田遺跡、太田黒田遺跡などの例を挙げながら、弥生文化の県内への伝播と変遷について発表しました。

3回目は黒石が横穴式石室の系統別分析から、古墳時代後期の和歌山県における集団の関係や政治的動向について発表しました。

今後も、徳蔵地区遺跡の縄文集落についての考古学講座が月末の土曜日に午後1時から開催される予定です。講座修了後は、希望者には、遺跡から出土した土器や石器・木器が見られます。ぜひ、みなさまご参加下さい。

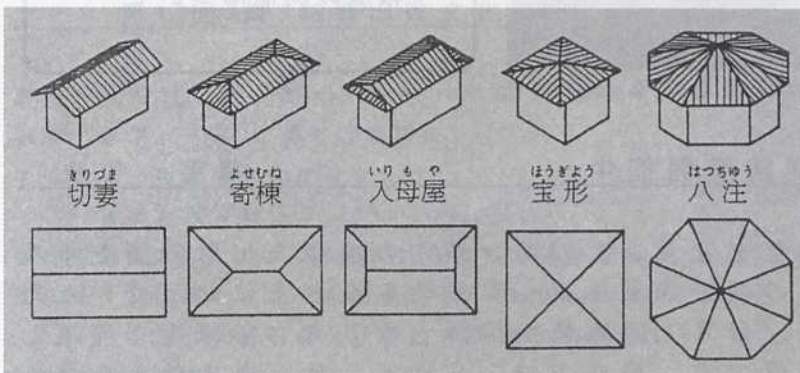
【社寺建築の見方】

寺本 就一

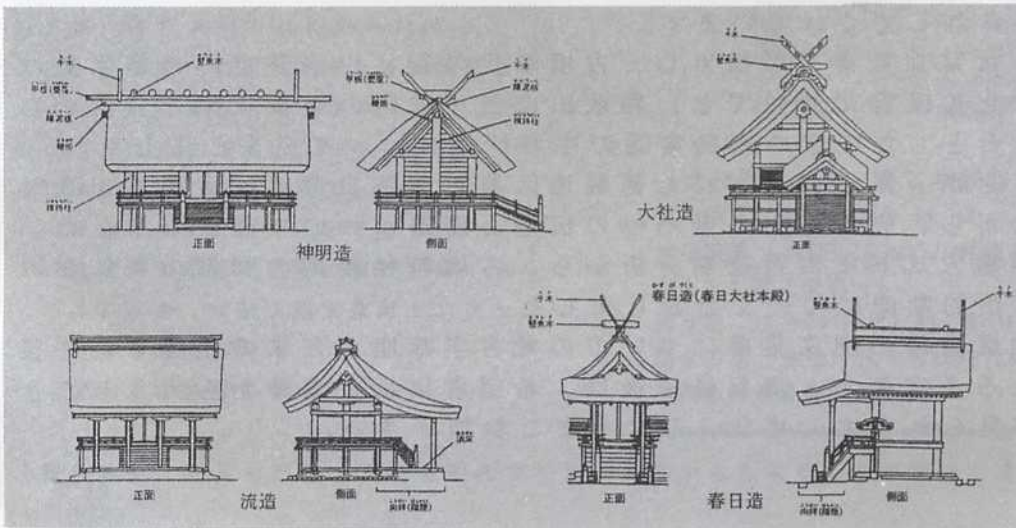
社寺建築の見方として、まずはお寺や神社の入口で境内全体を見渡します。神社では鳥居、水屋(水盤舎、手水所)、門・回廊・透塀、舞殿、拝殿・幣殿、本殿などがあります。寺院では、仏堂(本堂・金堂)、門(二重門、楼門、四脚門、薬医門、棟門)、塔(五重塔、三重塔、多宝塔)、講堂、鐘楼、経蔵など様々な種類の建物がああります。

次に、お寺では屋根を見てください。屋根の形と葺いている材料でだいたいの姿が想像できます。「入母屋造 向拝一間 本瓦葺」「四脚門 切妻造 本瓦葺」などと表現します。門などはそれぞれの形式に名前が付いており、それで姿がわかります。屋根の形式には、切妻造、寄棟造、入母屋造などがあり、葺材によって、瓦葺、檜の皮を使って葺いた檜皮葺、サワラなどの木を割った板で葺いたこけら葺などがあります。瓦には丸瓦と平瓦を組み合わせで葺いた本瓦と、一般の住宅などに見られる棧瓦があります。

神社にはあまり大きい建物はあありませんから、全体の外観を見てください。まずは、屋根の妻(屋根の三角の方)に入口があるか、平(屋根の軒先がある方)に入口があるかで大きく分けることができます。平に入口のある平入りの代表は伊勢神宮の神明造、妻入りの代表は出雲大社の大社造がありますが、和歌山県にはこの形式の社殿はあありません。切妻造の妻側に庇を設けた春日造がよく見かけます。春日造のうち隅木入春日造は構造的には春日造と異なりますが、見た目は変わりません。平入りの建物の軒先を延ばして庇とした形式として流造があります。流造は二間社・三間社、長いものでは五間社・七間社もああります。平入りの社殿は横に延ばしやすく、まるで神様の長屋のようです。



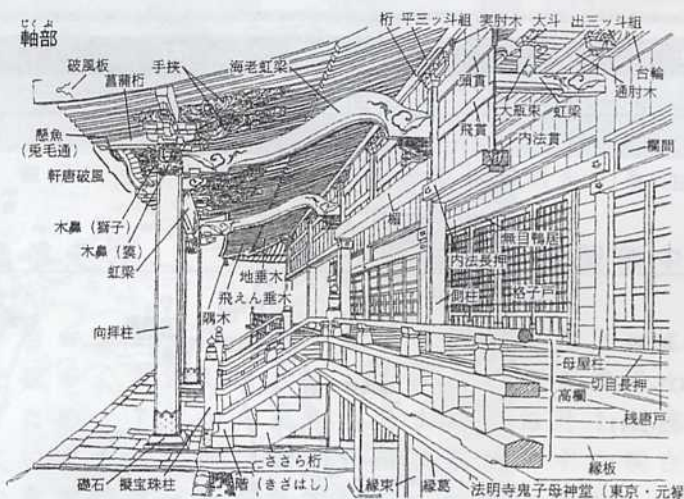
屋根の形式



神社本殿建築の形式

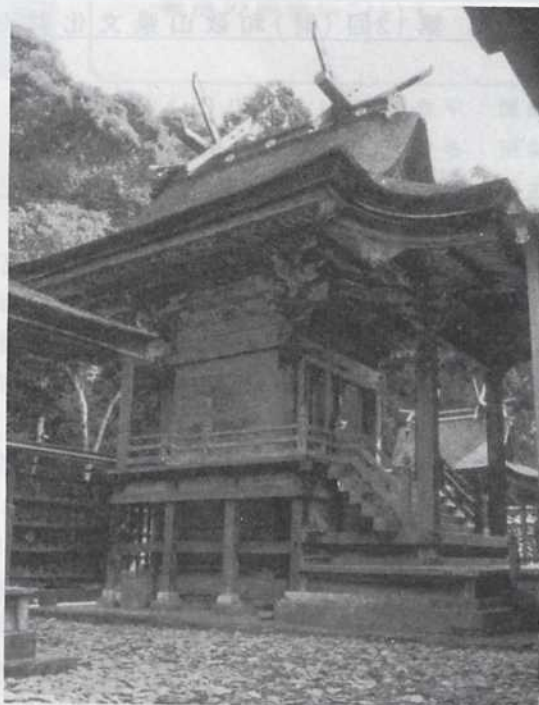
それぞれの建物の見所はどこでしょうか。まずは軒下を見てください。近世社寺（江戸時代の社寺建築）の魅力は細部の彫刻にあります。正面の向拝や庇の柱の上を見てください。向拝柱を繋ぐ虹梁の両端には渦が彫られ、柱から突き出た木鼻にも渦や象・猿・獅子・竜などの動物が彫られています。手挟という軒を支える部材も、渦が彫られていましたが、江戸時代も後期になると全体が植物などの彫刻となります。これからの彫刻は時代が新しくなるにつれてにぎやかになる傾向があり、渦や彫刻の形などでだいたいの時代が判別できます。また軒下は軒を支える部材や柱と柱を繋ぐ部材が複雑に絡み合っており、その組み方には様々な形式があり大変おもしろいのです。寺院の内部の部材の組み方も同様に興味深いところです。昔の大工さんはこういうところに力を入れていたのかもしれない。この部材一つ一つに名前が付いており、これらを覚えるのは骨が折れることで、名前を聞いただけでは、どんな部材か想像つかないものも多いかと思います。昔から大工さんが用いてきた言葉なのでしょう。

でも、皆さんが何気なく使っている言葉にも建築用語があります。2・3紹介しましょう。「敷居が高い。うだつが上がらない。」の「敷居・うだつ」は建築用語であることは皆さん知っていると思います。この他「物事をすみずみまで気をつけ、きちんとするさま」を「几帳面」と言いますが、これも建築用語です。面とは柱の角などが欠け落ちないように斜めに削った部分を言いますが、几帳面とは図のような段を付けたものを言います。この他にも身近な建築用語はたくさんあります。



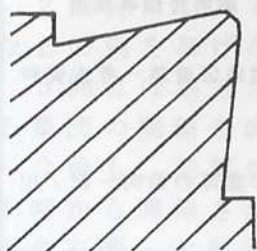
↑社寺建築の細部意匠

近世社寺建築の手びき(日本建築史研究会)より



日神社本殿(18世紀前半：白浜町)

彫刻による全面的な装飾が施された社殿は県内では日神社でしか見ることができません



← 几帳面

## コラム・考古学の散歩道

## —大きな土器と小さな土器—

渋谷 高秀

発掘調査で出土する多くの土器は、土にまみれ、破片となっています。何千年も何百年も土中に埋もれていたのです。この土器の破片は、ある時期に人が作ったものです。二千年前の弥生土器に、人の指紋があったり、木の葉のあとがついていたりします。この指紋は小さいから女の人が農閑期に作ったのかな、夜食事の後に作ったのかななど、想像は時間を超えてひろがります。また土器片には、大きいものや小さいものがあります。ほぼ完全な形の土器もあれば、小さなどこの部分かも分からないものもあります。しかし、小さな土器片でも時代を決定する重要なものであったり、遠く関東や東北地方から持ち運ばれた一片の土器もあります。その時代に和歌山県と交流があったことを示す小さな土器片、それでいて多くを私たちに語る土器なのです。分からない地域の歴史を発掘調査、その整理作業を通じて明らかにするのが考古学なのです。



■分類中の徳蔵地区遺跡の土器

## お知らせとご案内

## 第12回(財)和歌山県文化財センター速報展 第5回巡回展のご案内

期間：平成14年11月16日(土)～14年12月1日(日)

場所：きびドーム(吉備町役場隣接)

主催：(財)和歌山県文化財センター  
吉備町教育委員会

開館時間：9:00～17:00 閉館日：月曜日 見学無料

問合せ先：(財)和歌山県文化財センター Tel. 073-433-3843  
吉備町教育委員会社会教育課 Tel. 0737-52-2111

関連行事【講座】きびドーム

第1回 11月16日(土)13:00～14:00

◎小賀直樹 前有田市郷土資料館館長  
「有田川流域の原始～古代」

第2回 11月23日(土)13:00～15:00

◎御船達雄 和歌山県文化財センター  
「建物の修理で後世に伝えるものとは」  
—重文・旧中筋家住宅の修理現場から—  
◎井石好裕 和歌山県文化財センター  
「吉備町の奈良時代」  
—藤並地区遺跡を中心として—



【文化財センター考古学講座】海南整理事務所

第5回 11月30日(土)13:00～

渋谷高秀「南部町・南部川村徳蔵地区遺跡—考古資料からみた歴史変遷—」

第6回 12月21日(土)13:00～

藤井幸司「弥生時代～古墳時代の集落の動向—紀ノ川下流右岸地域を中心に—」